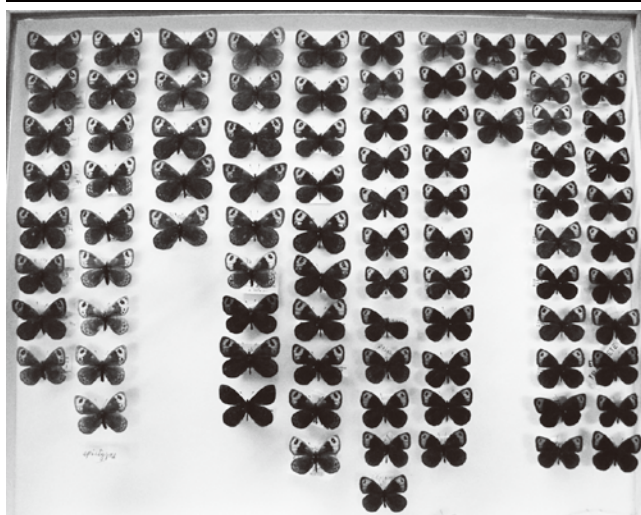


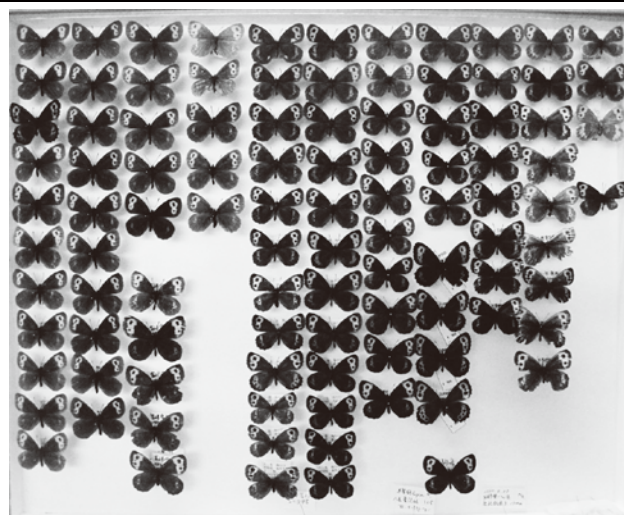
コレクション紹介

木暮 翠さんのコレクション紹介

諏訪哲夫



スペイン産ベニヒカゲ属の2種



本州産ベニヒカゲ

2012年8月、蝶の同好者の会に出席したすぐ後、突然ご自宅でお亡くなりになってしまった。81歳だった。結婚もされず一人住まいをされていたため詳細は分からない。書斎の机の上には静岡昆虫同好会からお願いした、50ページにもなるうかという原稿の最後のページが開かれていて、清書が終わったばかりの状況だったようだ。

木暮さんと静岡との関連はかなりさかのぼる。1955年、ご自身が静岡市井川二軒小屋で採集したガの一種が新種であり、コグレヨトウと命名された。1979年には静岡昆虫同好会会員8名と共に当時のソヴィエト連邦のコーカサスに調査に出かけたときの隊長として、すべての交渉や企画をしてくださった。これがユーラシア大陸の昆虫調査の始まりでサハリン、シベリア、モンゴルなど、実に18回に及んだ。

木暮さんは蝶の中でも特にベニヒカゲ属 *Erebia* について研究をなさっていた。1992-1993年日本鱗翅学会の会誌「やどりガ」に「*Erebia* 属の原色図説」と題して世界のベニヒカゲ属の解説を執筆している。

ベニヒカゲ属は、西はイベリア半島から東はロシア極東を経て一部北アメリカまで、およそ北緯40度から70度に分布し、ジャノメ

チョウ亜科に属し85種が知られている。日本には本州・北海道からクモマベニヒカゲ、ベニヒカゲ、エゾベニヒカゲの3種が知られており、本州に生息する2種はともに2000m以上にすむ高山蝶の一種である。

木暮さんはベニヒカゲ属の研究の中で、“日本のベニヒカゲと大陸のベニヒカゲが同じ種であるか”、また“この種はいつごろどのような経路で大陸から日本列島に分布を広げて本州では高山蝶になったのか”について関心が高く「アルタイからきた蝶ベニヒカゲ」という本を出版されるとともに、最近ではDNAによる系統分析の研究も行っておられた。

昨年11月、千葉に住んでおられたご自宅から約200箱の標本を清水に搬送した。全体のおよそ70%がベニヒカゲ属の標本だろうか。現在整理中であるが約5000頭が海外産のもの、ほぼ同じ数の日本産の標本を加えると10,000頭となる。世界から現在記載されている85種のうち1-2種を除きほぼ全種を保有しているとともに、日本に産する3種の既産地の標本もほとんど所有している。このほか未整理の三角紙に入った標本が茶箱3個ほどあって、これはおそらく全国で最も充実したコレクションであろう。